

＜白川小学校の炭焼きの歴史について・・・（参照）含む白川小学校たより「明星」等＞

### 【初めて炭窯を作る】

2001（平成13）年総合学習の一環として、『炭焼き窯を作って、炭を焼こう』、当時の山川誓一郎校長、川口謙次、松岡秀子、岩崎昌代先生が3、4年生を対象に地元の小川炭サークルの協力を得て進められました。

2001（平成13）年9月に炭窯が完成、以来2007（平成19）年まで続け、亀山大市などで販売されていました。

### 【炭焼きができるように】

（学校だより 明星第37号 平成29年12月22日（文責 川合）より）

4月に白川小に赴任してから、ヒョウタン池と4・5年前花壇のネットが気になっていたのですが、前者は改善。後者はもう少しで改善し、サル対策ができそうです。

もう一つ炭焼き窯が気になっていました。10年炭を焼かなくなって窯の屋根が穴開いています。6年前に教頭をしていた時に穴は開いていました。

せっかく先輩方が作った窯をあの状態でおくのはどうかと思いました。また、子どもたちにとって、あれがなにかわからず、今に至っています。

4月に6年生が、炭を焼けたらいいなあと思っていたのですが、何とかならないかとまち協の会長さんに相談をしてきました。コミュニティスクール推進委員会で「やってみよに」と声をかけていただきました。かべやさんからかべをもらって、そこに融雪剤をまぜたらくっつくという話をいただいたので、冬休みから挑戦です。煙突周り外れているのですが、破損はひどくないので修復します。



炭焼きは、6年生の理科「ものの燃え方」の発展として、学習できるのもいいですね。私にとっては小さい夢かもしれませんが、学校がきれいになり、子どもたちに感動を与えることができたらと思っています。

### 【いよいよ炭焼き実現へ】

（学校だより 明星第47号 平成30年2月23日（文責 川合）より）

「ゆめは実現するものだ」6年生の国語の教科書で『海の命』の一文です。ずっと追っていたクエという大魚と出会うのを待っていた時が来た時の文です。

さて、炭焼きが、とうとう実現しそうです。窯の壊れていた土壁を除去し、炭にする木も切ってきました。そして新たな土壁（ドーム）をつくる壁土の用意もできました。まち協の会長さんはじめ、地域の方々の協力でここまで来ました。そこで、炭焼き窯づくりを地域の方にさせていただきますが、子どもたちもその作業の一部に参加させます。（後文省略）

### 【炭焼き窯のドーム完成】

（学校だより 明星第49号 平成30年3月16日（文責 川合）より）

「あれ、炭焼き窯の屋根がない」月曜日学校へ来た子どもたちの驚きの声でした。3月12日（月）、朝からまちづくり協議会会長浅野重信さんをはじめ、10名の地域の方々にお世話になり、炭焼き窯づくりを始めました。指導には、野登地区から市川博重さんに来ていただきました。はじめは木をたてに詰めていきました。そしてその上に寝かせてドームの形をつくります。さらに、短い木をすきまに入れていきます。1・2年生は、





その作業を手伝いました。次にぬらしたむしろをその上にかぶせ、粘土を外側から置いて固めていきます。ある程度外側を積んだら中央へと粘土を盛っていきます。4限目に6年生が手伝ってくれました。「田んぼの土のにおいやな」と言っていて、作業をしていました。午後は全児童が集まって、ドームを順番にたたいて固めました。当日は、朝日新聞、中日新聞、伊勢新聞が取材に来てくれました。また、市の広報からも来てくれました。17日（土）午前中に屋根を取り付けて、19日（月）に炭焼き開始の予定です。



### 【炭焼き小屋屋根完成】

（学校だより 第51号 平成30年3月23日（文責 川合）より）

3月17日（土）土のドームをつくるのに屋根があると土をたたけないので、前の屋根をとりました。そして、もう一度、炭焼き小屋の屋根をつくりました。卒業式前の19日（月）に火を入れ、窯の土を徐々に乾かす作業に入りました。子どもたちもまきを入れました。しばらく、壁の土の上が白くなるまで乾かします。煙突は、火力が強くないよう、ふたをしてありますが、ふたを開けて、子どもたちに煙が出るところを見せてあげると感動していました。

